＜様式１＞

令和元年度　江東区立元加賀小学校　自己評価表

校長名　河　野　　美　幸

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域１	授業改善と学力の向上

項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	全学級で学び方スタンダードの徹底を図り、授業規律を確立する。	100	学び方スタンダードを守って授業に参加できたと回答する児童 90%以上	93	A
2	スタンダード強化講師を活用し、国語・算数の各スタンダードの内容の徹底を図り、基礎・基本の定着を図る。	96	・スタンダード定着度調査で、国語と算数の到達度 80%以上の児童の割合 85%以上 ・授業がよく分かると回答した児童の割合 85%以上。	99	A
3	全教科で児童が主体的に自分の考えを「話す・書く・交流する」活動を効果的に取り入れた授業構成を工夫し、思考力・判断力・表現力を育成する。	97	自分の意見をもち、友だちと意見交流できたと回答する児童の割合 80%以上	103	A
4	・本に親しむ活動（朝読書、読書旬間、読書啓発活動、白河こども図書館との連携）を実施し、読書習慣の定着を図る。 ・発達段階に応じ、短時間でできる読書記録を工夫する。	96	多様な読書を通して、自分の推薦本を挙げることができる児童 85%以上	98	A

＜結果についての分析と改善策＞

・　「学び方スタンダードを守って授業に参加できた」と回答した児童の割合は 84%で、前年度比＋4%である。学びスタンダード定着度調査のアンケートでも、「学び方スタンダード」の８項目の平均達成度は 88%だった。しかし、８項目の中で姿勢についての達成度は平均 74%と低い。２月に全校朝会で姿勢について養護教諭の講話を行った。今後、本校独自の合言葉「パー・ペタ・ピン」の定着を図っていく。

・　定着度調査で国語・算数の平均到達度が 80%以上だった児童の割合は、77.5%と目標に達しなかった。しかし、70 点後半の児童も多く、あと一歩で目標達成となる。定着度調査の結果を分析し、授業改善に取り組んでいく。「授業がよくわかる」と回答した児童は 92%で前年度比＋1%だった。「わかった」という実感はかなりの児童がもっている。

・　前年度は「自分の意見や考えを発表できたか」という設問で肯定評価 79%だった。今年度は新学習指導要領で求められる「対話的で深い学び」を意識して「交流」を重視した設問に変更し、肯定評価＋4%の 83%となった。言語活動を校内研究の柱とし、授業中に「交流活動」を取り入れるようにした成果と思われる。ただし、交流によって「深い学び」ができているかについては、今後検証が必要である。

・　「おすすめ本を見つけられた」と回答した児童の割合は 83%で、前年度比＋5%である。週３日全校朝読書を位置付けたこと、読書記録に取り組んだこと、PC を効果的に活用した図書委員会の発表、全校朝会での読書感想文の優秀作品の紹介等が要因と考えられる。今後も読書への関心を高める取り組みを続けていく。

＜様式１＞

重点領域２	豊かな心の育成

項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
１	校内で共通理解を図り、あいさつ、着帽、無言教室移動、無言集合、無言整列等を徹底する。	88	学校のきまりを守って行動できたと回答する児童の割合 90%以上	98	A
２	全学級で、いじめに関する授業を年３回、５・６年で「ＳＯＳの出し方」についての授業を年１回実施する。	100	自分も友達も大切にできたと回答する児童の割合 90%以上	103	A
３	児童が主体的に推進する学校生活改善運動を年２回以上実施し、自分達でよりよい学校生活を送ろうとする態度を育てる。	100	学校が楽しいと回答する児童の割合 85%以上	99	A
４	地域と連携し、地域人材や施設を生かした学習活動を各学年１回以上実施する。	100	このまちがすきと回答する児童の割合 90%以上	99	A

＜結果についての分析と改善策＞

・あいさつについては、昨年度よりもだいぶ声が出るようになった。児童会を中心とした挨拶運動も効果的であった。

・着帽については、学年が上がるにつれて意識が低下する傾向がある。学校への愛着や所属意識を含め、引き続き指導する。

・私語を慎む場面等、教員が意識させればだいぶできるようになってきた。しかし、自分で状況判断し、自分たち自身のためにも、周囲への配慮という面からも自己のとるべき行動について考える力については、引き続き指導が必要である。「自律心」の育成を図りたい。

・「自分も友達も大切にできた」と回答した児童の割合は 93%で、前年度比＋3%だった。数値的には高く、良い結果が出ている。しかし、「友達」をどのように捉えているか、が気になるところでもある。だれとでも仲良くできる、誰に対しても敬意を払ったり尊重したりすることを基本姿勢とできる児童の育成を目指していきたい。

・「学校が楽しい」と回答した児童は前年度と同じ 84%だった。「楽しくない」と回答する児童も平均して 16%いるということになる。「学校が楽しい」と回答する児童がさらに増えるよう、学校は教育活動の工夫改善、児童の気持ちの把握や信頼関係の構築等に努めていく。その一方で、「楽しい」というのは、「好きなこと」だけをやるのではなく、様々なことに取り組んで得られる達成感のもとに感じられるのだという指導も重ねていきたい。

・「このまちが好き」と回答した児童は前年度比＋1%の 89%だった。今年度は地域人材を生かした授業の対象学年を変更したり、内容を変更したりしたが、地域の方々の力により、地域とのつながりは強く、街に愛着をもっていると捉えられる。地域行事への参加率も高い。

＜様式１＞

重点領域３	体力・運動能力の向上				
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	「一日一回以上は外遊び」を指導する。	97	すすんで運動する習慣が身に付いたと回答する児童が 85%以上。	98	A
2	体力スタンダードの校内目標値を設定し、基礎体力と基本的な運動能力の向上を図る。	97	当該学年の目標を達成できた児童 85%以上	98	A
3	各学級で目標回数を決めて長縄チャレンジに取り組む。年３回取り組む。	100	目標を達成できた学級 90%以上	70	B

＜結果についての分析と改善策＞

・「外遊びができた」と回答した児童の割合は 97%であり、前年度比＋４%である。年度途中から週１回「ロング昼休み」を導入したことが外遊び増加につながっていると思われる。

・体力スタンダードの「当該学年の目標を達成できた」と回答した児童は前年度比＋２%の 84%である。しかし、体力テストの結果からは児童の体力の低下が見られる。体育の時間に、各競技・種目の「ゲーム」を楽しむだけでなく、基礎体力向上のためのサーキットトレーニングを取り入れることが重要である。また、１時間の運動量をいかに確保するか、授業の工夫が求められる。

・長縄については、多くの学級が学級の目標数値を達成することができた。達成学級を表彰した際には喜びの声もあがり、長縄に向けて気持ちが高まっている様子がうかがえた。

【評語】成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。
Ａ：９０％以上（目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）
Ｂ：５０％以上９０％未満
Ｃ：５０％未満（目標や努指標等を見直す）